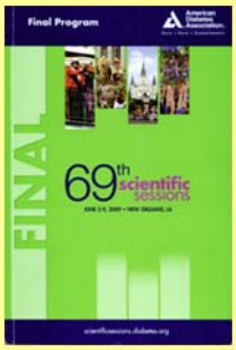
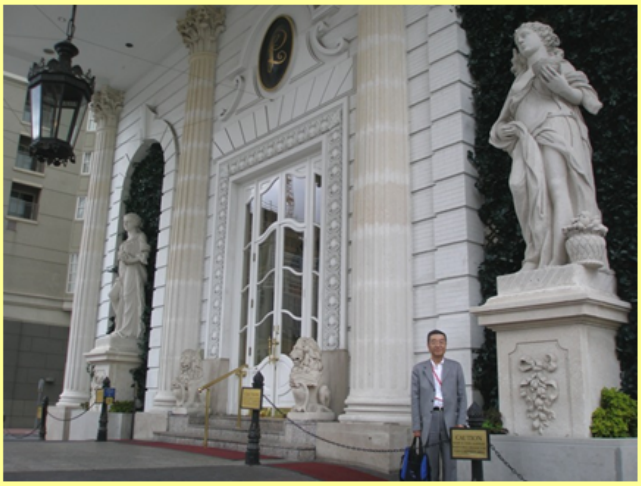
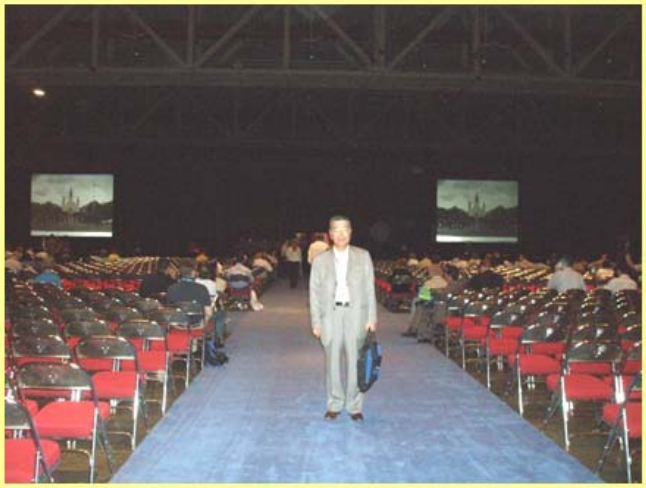
アメリカ・ニューオリンズ萬遊記



2009年6月4日から9日までアメリカ糖尿病学会に行って来ました。成田からシカゴ（オヘア空港）まで約12時間飛行機に乗り、そこからまた2時間30分程飛行機を乗り継ぎ、開催地のニューオリンズに行ってきました。途中で生まれて初めての経験でしたが、シカゴ（オヘア空港）で乗った飛行機が、離陸寸前に突然天井からもくもくと煙が出てきたため、キャプテンからGet Outと叫ばれて、飛行機から緊急避難すると言うアクシデントに見舞われました。九死に一生を得た経験でした。
ニューオリンズに午後5時ごろ到着しシャトルバスでホテルに着きました。あいにく天気は曇っており、蒸し暑いところでした。

翌日から学会場のMorial Convention Centerへ行き、まず受付をしました。会場内を歩き回って見ましたが、相変わらず今回の会場もどでかい会場で、LEVEL1にホールAからFまであり、その他にもLEVEL2,3がありました。会場に入った第一印象は今年は参加人数が少ないなあと思いました。特にEXHIBIT HALLへの入場者が極端に少なかったと感じました。不景気のせいか各メーカーの景品もほとんどなく、例年ですとバックやボールペンをたくさん腕に抱えている人が多く居るんですが、今年はほとんど目に付きませんでした。





そのような中で、5日金曜日午後2時からHall Fでシンポジウムがあり、今後、アメリカ糖尿病学会とヨーロッパ糖尿病学会では、糖尿病の診断基準はHbA1c6.5%以上とするとの提案が発表されました。会場内で活発な質疑が交わされました。今までの診断基準との整合性は？世界のHbA1c値の違いは？アメリカ糖尿病学会の治療目標であるHbA1c7%以下はどうなるか？など多くの質問者が列をなして質問していました。今後、日本でも糖尿病診断基準が変ることになると思います。

6月7日日曜日午前10時からはHall Aで、ポール ロバートソン会長講演とバンチング賞受賞者ジョージ アイゼンバート先生の講演がありました。大きな会場がいっぱいになり床に座って聞いている人もいるほどでした。

6月7日日曜日午前10時からはHall Aで、ポール ロバートソン会長講演とバンチング賞受賞者ジョージ アイゼンバート先生の講演がありました。大きな会場がいっぱいになり床に座って聞いている人もいるほどでした。

今回の学会で注目された話題は、インクレチン関連の発表でした。その会場は大入り満員御礼で入りきれず、別室会場を急きょ設定していました。シタグリプチン、リラグリチドやエクセナタイドなど多くの話題が発表され、非常に良い成績であることが印象的でした。GLP-1製剤の週に1回注射や2週間に1回注射製剤も治験が進んでいました。

次に注目されていたのはCGM(持続血糖測定器)で、現在発売されているのは世界で3社だけです。まだ、日本には有線の機械しか入ってきていませんが、アメリカでは3社とも無線の新製品が紹介されていました。因みに日本では、電波法と言う法律があり発売が許可されていないそうです。CGMはメーカーによって多少違いますが、PCのマウスに似た形でそれをずーと小さくした機械です。その先に付いている針を、3日から7日間腕やお腹の皮下に入れっぱなしにして、5分間に1回血糖値を測定して行く機械です。これまでの1回1回針を刺して測る自己測定とは全く違い、非常に日常臨床に役立つ装置と思います。睡眠中や運動中、食事中などあらゆる時間帯の血糖値が図れるようになります。糖尿病の診療をしている医師として、早く患者さんに使ってみたいと強く思い感動しました。

ミシシッピー川には、ノテイス号という有名の蒸気船があり、乗ってみるとフレンチクオーターを一望できました。私が思うにウォルト ディズニーは多分この町を参考にして、ディズニーランドを作ったんだと思いました。また、ルイ アームストロングの出生地で、その記念館もありましたが寂しい所でした。

2013